

特集にあたって[†]

大滝 厚* / 立林 和夫**

1. はじめに

近年、東日本大震災の影響や超円高の継続により、日本企業のグローバル生産・販売の展開がそれ以前よりもさらに加速し、超円高が一段落している現在でも海外進出が継続している。日本製品の強みは新技術と高品質にあり、海外生産においても国内生産と同等の高品質を維持するうえで、品質管理教育のグローバルな実施が不可欠となっている。

海外に進出している日本企業の多くは、現地拠点において、各社の努力のもとで何らかの品質管理教育を行っているが、多くの困難を抱えていると報告している。そうした困難は現地教育における講師の調達、現地語の教育テキストの不足のように、各社に共通するものが多いと思われる。

そうした中で、日本品質管理学会(JSQC)産学連携WGが2011年度に実施した賛助会員に対する「JSQCの産学連携活動に望むこと」のアンケート調査で、「品質に関して現在対応に苦慮していること」の1位に「グローバル品質保証」が挙げられ、「人材育成に関する悩み」の1位に「グローバル人材育成」が挙げられた(図・1)。

JSQC産学連携WGでは、賛助会員のこうしたニーズに対応するため、2011年度に計画研究会としての「グローバル品質管理教育研究会(GQE)」の設置を提案し、理事会の承認を得た後、2012年4月より準備活動を開始した。

今回の学会誌の特集は、GQEの約2年間の活動を

まとめた中間報告であるJSQC第150回本部シンポジウム(2014年7月31日開催)の成文化である。

2. GQE 開始前の準備活動

前記のような経緯でJSQC産学連携WGの中にGQEを設置することが決まり、主査として大滝厚、副主査として立林和夫が指名され、研究会を立ち上げるための準備を開始した。準備活動は2012年4月～10月の約半年間をかけて行った。

準備活動は、研究会メンバーの募集と海外品質管理教育に関する問題・課題の概要把握を中心に、次のように進めた。

① 中部地区企業のヒアリングと参加打診

中部地区の3社に名古屋に集まっていただき、海外品質管理教育に関する問題・課題をヒアリングするとともに、研究会への参加を打診した。

② 関東地区企業のヒアリングと参加打診

関東地区の4社、九州地区の1社に東京に集まっていただいた。

③ 品質管理教育機関のヒアリングと参加打診

日本科学技術連盟、日本規格協会、中部品質管理協会、海外産業人材育成協会(HIDA)を訪問した。

④ 個人参加メンバーへの参加打診

学会員の中で海外品質管理教育に興味をもつ方に個別に参加を打診した。

参加を打診した企業・機関の中には、遠方であるなど諸般の事情により研究会メンバーにはなれないという企業もあったが、打診したすべての企業・機関から協力はしたいという好意的なお返事をいただいた。

3. GQE の活動状況

3.1 研究会メンバー

[†]平成26年10月15日 受付

*明治大学名誉教授

**元・富士ゼロックス(株)

**連絡先：〒243-0018 厚木市中町3-2-18-907(自宅)

主査大滝厚，副主査立林和夫，青木晃(べんてる)，藤井暢純(サンデン)，武石健嗣(ジーシー)，小嶋久(りコー)，村川賢司(前田建設)，永原賢造(PMT)，光藤義郎(文化学園大学)，大藤正(玉川大学)の10名で2012年11月に活動を開始し，途中で黒河英俊(アルプス電気)，尾台弘章(日本インテグリス)の2名が加わった。

3.2 研究会の目標と活動期間

研究会の最終目標は、「品質管理教育プログラムの標準化」とした。具体的にはメンバー企業の事例研究や賛助会員への調査を通して，グローバルな品質管理教育に共通する「要求事項」と個々の企業が求める要求事項に分けて，前者の共通要求事項を中心に学会標準を開発・提案することである。また，標準テキスト開発・現地語化の企業間協力の推進も行う。

活動期間は当面，2012年11月～2014年10月の2カ年間とした。

3.3 活動経緯

2014年11月8日に第1回研究会を開催し，以降は2カ月に1回の開催間隔で12回開催した。研究会活動は，以下の4点を中心に行った。

- ① メンバー企業における海外品質管理教育実施上の問題・課題報告
- ② 公開された資料による「各企業での海外品質管理教育実施上の問題・課題」の把握
- ③ メンバー以外の企業・機関を招待した「海外品質管理教育実施上の問題・課題」の把握。
- ④ JSQC 賛助会員企業への「海外品質管理教育実施上の問題・課題」の調査と調査結果のまとめ

このうち，③の招待講演ではトヨタ自動車，コマツの2社に協力していただき，また海外産業人材育成協会(HIDA)にも海外技術者および日本からの支援者の教育の現状を紹介していただいた。ご協力をいただいたトヨタ自動車，コマツ，HIDAには感謝の意を表したい。

また，④の調査ではJSQC 賛助会員の中で海外に開発・生産拠点を展開している88社に回答を依頼し，25社+1機関から回答をいただいた。2014年の研究会活動の大部分は調査結果のまとめと結果の議論に費やした。ご協力をいただいた24社+1機関からは詳細な回答内容をいただいた。感謝の意を表したい。

4. 本特集の構成とJSQC 第150回本部シンポジウム

本特集では，海外進出企業の品質管理教育実施上の課題と今後の方向性を明確化するための中間報告である。JSQC 第150回本部シンポジウム(2014年7月31日開催)の中から，メンバー企業2社と招待企業1社の合計3社の事例，賛助会員への調査結果とグローバルな品質管理教育に共通する「要求事項」(案)，今後の方向性を紹介する(表・1)。シンポジウムではこのほか，海外産業人材育成協会(HIDA)の活動紹介と90分間のパネルディスカッションも行われたが，紙数の都合から今回は割愛する。これらは別の機会があれば紹介したい。

4社の事例からは，各企業がどのように海外で品質管理教育を行い，どんな困難を抱えているかが具体的にわかる。また，賛助会員への調査結果，グローバルな品質管理教育に共通する「要求事項」，今後の方向性は企業共通の悩みを明らかにしている。

(賛助会員企業152社の品質担当役員に回答を求め、66社が回答)

1. 現在対応に苦慮している品質課題・問題はありますか？(複数回答可)

YES 59
NO 3

2. YESの場合、どのようなジャンルに分類されますか？(複数回答可)

(1) 品質経営に関するもの

グローバル品質保証 38
品質マネジメントシステム(QMS) 23
TQM 15
CS経営/VOC経営 11

(2) 製品・サービスに関するもの

設計品質 45
製造品質 30
企業品質 17
海外調達 13

(3) 人材育成に関するもの

グローバル人材育成 45
OJT(技術伝承) 30
マネジメント能力/リーダーシップ 17

図・1 品質課題に関するJSQC 賛助会員の意識

表・1 特集の内容

テーマ	執筆者・所属
べんてるにおける現状と課題	青木 晃(べんてる)
ジーシーにおける現状と課題	武石 健嗣(ジーシー)
コマツにおける現状と課題	荒井 秀明(コマツ)
JSQC 賛助会員調査結果報告と今後の方向性	立林 和夫(元・富士ゼロックス)